

戸田市立小・中学校 英語教育ブックレット 2022

Booklet for English Education
in Toda City, 2022

戸田市の目指す子供像（小・中9年間の一貫した英語教育）

- ・ 誰とでも主体的に関わろうとする子供
- ・ 互いの気持ちや考えを英語で伝え合うことができる子供
- ・ 豊かな国際性を身に付けた子供



戸 田 市 教 育 委 員 会
戸田市英語教育研究推進委員会

—お願い—

本ブックレットの活用にあたっては、以下の資料（電子データ）との併用により深い理解と高い効果が期待されます。日々の授業改善に向けて御活用ください。

- ・ 『新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習評価の在り方・進め方』, 戸田市, 2019.
- ・ 『戸田市立小・中学校英語教育ブックレット 2020』
- ・ 『戸田市立小・中学校 全学年の年間指導計画事例（外国語活動／外国語科）』

戸田市の英語教育について

※小学校中学年における「外国語（英語）活動」の実施について

本市全小学校は、中学年の「総合的な学習の時間」を 35 時間削減し、「外国語（英語）活動」を 35 時間実施することとなっている。これは、学習指導要領等の教育課程の基準によらない特別の教育課程の編成・実施を可能とする特例校（教育課程特例校）（令和 2 年 1 月文部科学大臣承認）となっていることに基づくものである。（期間は、次期教育課程変更日まで）

※小学校学習指導要領における外国語（英語）活動及び外国語（英語）科への短時間学習の導入について

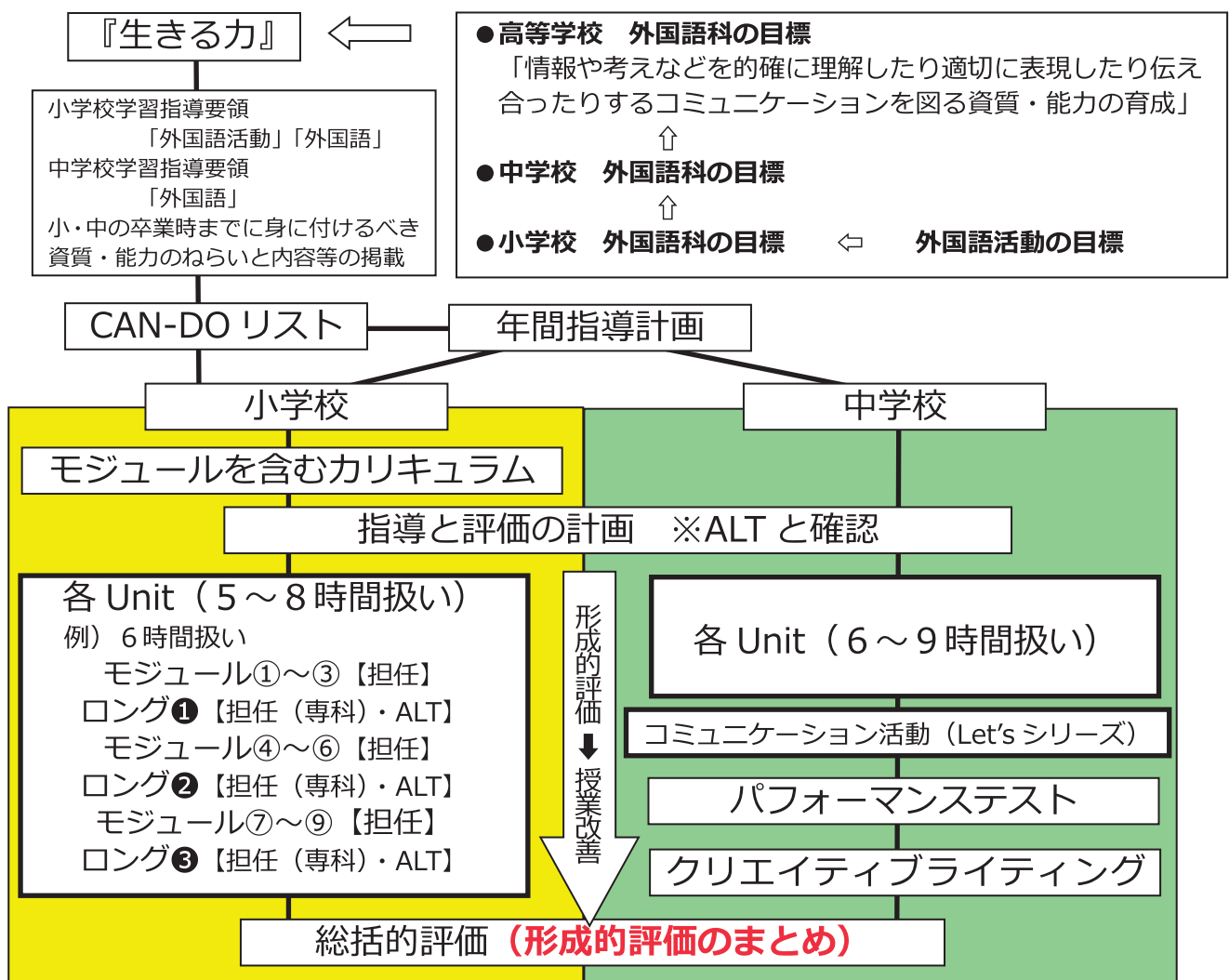
本市の中学年の「外国語（英語）活動」については、平成 15 年度から 35 時間実施しているが、さらなる英語教育の充実を図るために 35 時間増とし、合計 70 時間とする。小学校中学年・高学年の 35 時間分の実施方法については、15 分間の短時間（モジュール）学習を 3 回行うことにより 1 単位時間（45 分間）に換算することとする。

なお、低学年については、余剰時間や短時間学習も含め 20 時間程度とする。

小・中「外国語」の目標は、コミュニケーションを図る資質・能力の育成です。

※小・中の 7 年間で、英語を用いた「言語活動」を通してコミュニケーションを図る資質・能力（三つの柱：①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等（非認知能力））を育成し、各学年の修了時に「何ができるようになるか（CAN-DO リスト参照）」の教育を行う。

—授業を行うに当たって—



外国語を通じてコミュニケーションを図る資質・能力を育成するために

【我が国の外国語教育の現状】

今も、中高生の多くは「言語構造の理解」と「読み書き」を中心とする教育を受け続けています。その結果、「読解」等の筆記試験では高得点を取得することは出来ますが、外国語（英語）を用いて外国人と異文化間コミュニケーションを図るとなると「苦手な生徒が沢山」います。大学生にもいます。



渡 邊 寛 治 先 生
戸田市英語教育運営指導委員会委員長
文部科学省国立教育政策研究所名誉所員



「外国語を用いてコミュニケーションを図る資質・能力を育む」ためには、**授業の方法等を含む教育課程の在り方と運営方法の改善**を図る必要があります。

母語の場合も同様ですが、人が生きる上で必要なコミュニケーション力（資質・能力）を育むには、先ず、**口頭による対話力（会話力）**を磨くことが重要です。会話に必要な言葉は、実際のコミュニケーションを通して徐々に身に付けていきます。外国語を用いたコミュニケーション力（資質・能力）を育むには、母語の時より多くの**実体験学習**を要します。

「コミュニケーションを図る資質・能力の素地及び基礎」を育むために

授業を担当する担任及び専科教員と児童生徒

児童生徒同士

言語活動

児童生徒と ALT のリアル異文化コミュニケーション体験

「対話のやり取り」を数多く**実体験**させ、資質・能力の見取りは、評価規準を用いて、**客観的な分析**による形成的評価で行い、**授業改善**を図ります。**形成的評価は**、最初から「成績付け」をするために行うわけではありません。

したがって、今後は「外国語（英語）による対話力（資質・能力）の育成状況」を客観的に分析するための**評価規準（及び基準）**を設定した上で授業を行う必要があります。

ALT 等と**意味のある「やり取り」の実体験**を積むことで、外国語（英語）を用いて、双方が**分かち合う力（対話力）**を養うようにしましょう。下記の教科書掲載の言語材料の理解のみを学ぶ授業では、国際コミュニケーション力の素地・基礎は育まれません。



A: **Who** is **your hero**?

B: My hero is **my brother**. ----- 【※情報の伝達。尚、下線部のみでも相手に伝わります！】

A: **Why** is he your hero? 【※理由を質問。下線部のみでも伝わります！】

B: He is **good at cooking**. ----- 【※理由の明示。これで双方の対話は成立。】

■上記の「やり取り」例には、円滑なコミュニケーション力を育む上で、改善すべき課題もあります。

検定教科書には文字制限がある故、いきなり質問から始めていますが、国際社会におけるソーシャルスキルの素地に欠けています。一般には、*Smile, Eye-contact, Clear voice* 等に配慮しながら、*Hi!* や *Hello!* などと「挨拶」を交わしてから尋ねます。（波線部分は、小学校の外国語教育で育みましょう）

また、**Can I ask a question?** などと言って相手から「許可」を得ましょう！【※相手への配慮】

それから、英語によるコミュニケーションでは、活発な質疑応答のもと、質問に対しては**即答**します。その時、詳しい情報を「**分かりやすく論理的に伝え合う力**」が求められます。活発な**質疑応答と会話の持続の仕方**を ALT との異文化間コミュニケーションを通して体験させましょう。

「対話力」の育成は、高次な学力故、アドホックな考え方では出来ません。外国語教育に携わる担任及び専科教員には「**目標に準拠した指導と評価の一体化**」の理念に基づく授業の設計力と指導力が必要です。「どのような資質・能力を育成するのか」について、自校の子供の実態から**どの程度可能なのか**を十分に討議し、子供たちにとって**真に意味のある人間教育**をお願いします。

小学校外国語活動・外国語科／中学校外国語における評価の観点及びその趣旨

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小学校 外国語活動 3・4年	●外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。 ●日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 ●外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	●身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	●外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
小学校 外国語科 5・6年	●外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気づき、これらの知識を理解している。 ●読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。 ●外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。	●コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 ●コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	●外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
中学校 外国語科	●外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解している。 ●外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている。	●コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりしている。	●外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

学習評価を進めるにあたって

◆「目標」達成に向けた学習状況を、自校で設定した「評価規準」を用いて評価する。

- ・評価規準とは、教育目標を具現化したもので「**すべての学習者が到達することを期待する達成目標**」のことである。規準は観点別に学習活動状況を評価する際のよりどころとなる。
- ・規準は、上述の**観点の趣旨**と活動の**場面及び状況のヤマ場を重視して具体的に設定**する。

◆「領域別の目標」をもとに「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

- ・外国語活動・外国語科における内容のまとまりとは、「**聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り、発表〕、書くこと**」の**領域**を指し、それぞれ育成を目指す資質・能力が具体的に示されている。

【参照】『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（文科省）
 小学校 外国語(pp.32-33)・外国語活動（p.99）
 中学校 外国語(pp.32-34）

◆「観点別学習状況の評価方法」を計画し、**客観的に分析（形成的評価）**を行う。

- ・具体的には、自校の評価規準（「概ね、満足」：基準 B：）を用いて行う。評価の場面や方法、そして基準【A:「十分、満足」、B, C:「努力を要する」】については、どのような評価理念で設定するのか、各学校でその手立てを考える。
- ・形成的評価から得る情報は、児童生徒の**学習改善**や教師の**授業改善**につなげる。
- ・（複数の）単元末には、上記の形成的評価のまとめ（総括評価：A, B, C）を行う。

学習者用デジタル教科書の活用による授業改善

令和4年度は全小・中学校に学習者用デジタル教科書（外国語）が導入される。

家庭と学校をシームレスに
つなぐ学び

《活用例》

- ・ イラストや写真の拡大機能を活用したリテリング
- ・ 朗読ツールを活用した「話す・聞く活動」等
- ・ 画像を映し出しながらの即興プレゼンテーション

『学びの質の向上』ー学びをデザインするー

《活用例》

音声読み上げ機能を使用し、家庭での個別の
発音練習や音読練習を取り入れた反転学習

個別最適な学びの充実



授業場面でどんな活用ができるのか

①知識及び技能の習得

発音や語彙、表現などについての確認等を個人のペースで学習する場面

【音声読み上げ機能の活用】

- ・ 自分のペースで繰り返し聞いて、発音や音の変化などを何回でも確認できる。



②思考力、判断力、表現力等の育成

コミュニケーションを行う目的や場面、状況に
応じて、自分の考えなどを伝え合っている場面

【書き込み機能】

- ・ 教科書本文の語彙や表現等を自分の表現に取り込むことで、より適切に伝えることができる。

③学びに向かう力、人間性等の涵養

他者との交流を通じ、他者に配慮しながら、意
味を分かろうとしたり、より適切に表現したり
するような場面

【書き込み機能】

- ・ 目的や場面、状況に応じて適切に表現しようとするためにメモを取りながら主体的にコミュニケーションを図ろうとすることが期待できる。

戸田市立小学校モジュール・カリキュラム

モジュール・カリキュラムの考え方

小学校「外国語活動・外国語」のモジュール学習は、45 分間のコミュニケーション活動をより深まりのある「言語活動」にするために、活動で用いる言語材料（語句や表現等）に「なじむ」ことを目的とし、基本的には学級担任が行う。

※ただ単にゲーム等を行う時間ではない。

※学習評価は、45 分間授業の中で行う。

15 分間モジュール

「言語材料になじむ時間」

- ・ 45 分授業で慣れ親しんだことの復習（効率的な繰り返し練習等）
- ・ SWITCH ON! の活用
- ・ 高学年は、「読むこと」「書くこと」
- ・ 言語材料への理解や練習

15分

15分

15分

45 分間授業

実際に外国語（英語）を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する。

モジュール・プログラムの基本的な流れ（例）

5 年生 NEW HORIZON Elementary Unit 1 Hello, friends.

時間	内 容	教 材
2 分	1 挨拶をする。 H: Hello, everyone! S: Hello, Mr./Ms.~. H: How are you? S: I'm~. スモールトークをする。	・ 児童を抽出し、スモールトークを行い、学習の見通しを持たせる。 ・ ペア活動 H: Hi! I'm Minami. What is your name? S: My name is (or I'm)~.
10 分	2 英語によるコミュニケーションへの意欲「英語を使って将来したいこと」を書く。 3 ポインティングゲームをする。	・ 教科書 p.2&3 を参考に、自分の考えを書かせる。 ・ ピクチャーディクショナリーの p.24 を見ながら、HRT の言った言葉を指で指す。
2 分	4 今日のまとめをする。 （言語材料の確認）	
1 分	5 挨拶をする。	・ 次時の活動に向けて、意欲的に活動ができていた児童を称賛する。

小学校外国語科 5 年生 モジュール 授業案①

タイトル	Hello, friends. 名前や好きなもの・ことを伝えよう。Starting Out	
実施時期	5 学年 4 月 第 1 時	
活動目標	名前や好きなもの・ことなどについてのやり取りのおおよその内容を理解する。知	
評価規準	知 I' m ～. My name is ～. I like ～. What ～do you like? およびその関連語句などのおおよその意味を理解している。	
活動の流れ	児童の活動	HRT の活動 ※評価
1 あいさつ 2 話すこと (やり取り) 3 英語によるコミュニケーションへの意欲	- 挨拶をする。 - スモールトークをする。 「英語を使って将来したいこと」を書く。	- 代表児童と名前を伝え合うスモールトークをする。 H: Hi! I' m Minami. What is your name? S: My name is(or I' m) OO. . . - ペアでやり取りする。 - 英語によるコミュニケーションを図ることでどのようなことができるか、教科書の p.2&3 を見ながら考えさせ、自分の考えを書かせる。 - 外国語によるコミュニケーション学習への意欲を高めさせるようにする。 - 学校に関する言葉を復唱させる。
4 ワードリンク 5 あいさつ	【Word Link】【Let' s Try 1】 - 学校の言葉 - ポインティングゲーム - 挨拶をする。	ピクチャーディクショナリーの p.24 を見ながら、HRT の言った言葉の絵を指で指す。
1 あいさつ 2 チャンツ 3 ワードリンク 4 話すこと (やり取り) 5 あいさつ	- 挨拶をする。 - チャンツを聞き、言う。 ②What sport do you like? 【Word Link】【Let' s Try 1】 - スポーツの言葉 - ジェスチャーゲーム - スモールトークをする。 - 挨拶をする。	- 一度聞かせてから、言わせる。 - スポーツの言葉を復唱させる。 - 列ごと与えられたスポーツの言葉をジェスチャーで次の人に伝え、1 番最後の児童が答える。 - 代表児童と好きなスポーツを伝え合うスモールトークをする。 H: Hi! I' m Minami. What is your name? S: My name is(or I' m) OO. . . H: What sport do you like? S: I like OO. . . - ペアで「やり取り」(質疑応答の仕方)に慣れ親しむ。
1 あいさつ 2 チャンツ 3 聞くこと	- 挨拶をする。 - チャンツを聞き言う。 ①How do you spell your name? ②What sport do you like? 【Let' s Watch and Think】 - 教科書の小学生について分かったことを書く。	- 一度聞かせてから、言わせる。 - 初めてのチャンツは、遅い速度で言わせる。 - 聞くポイントを伝える。(名前・綴り・好きなものなど) - 綴りなどは、HRT が繰り返してもよい。 - 教科書 p.11 に分かったことを書かせる。 - 聞き取ったことを確かめる。
4 あいさつ	挨拶をする。	



【注：モジュール学習の「やり取り（口頭コミュニケーション）」で用いられる「音声言語の習熟度」については、ロングの「やり取り」の中で見取りましょう。ロングの活動で対話者が通じ合っていれば、使用言語に習熟していると言えます！但し、「書写」と「音読」の技能については、モジュール内で見取りましょう。】

小学校外国語科 5年生 ロング授業①

タイトル	Hello, friends. 名前や好きなもの・ことを伝えよう。Starting Out		
実施時期	4月 第2時		
活動目標	名前や好きなもの・ことなどについてのやり取りのおおよその内容を理解する。技		
評価規準	技 名前や好きなもの・ことなどについておおよそ聞き取っている。		
活動の流れ	児童の活動	HRT の活動※評価	ALT の活動
1 挨拶	・挨拶をする。	・児童に挨拶をさせる。	・挨拶の後、“How are you?” と気分を尋ねるなど児童とコミュニケーションを図る。
2 ウォームアップ	・スモールトークを聞く。	・ALT と自己紹介のスモールトークをする。(名前・綴り・好きな物など) ・新しいALT の場合、出身国など詳しくしてもよい。	・HRT と自己紹介をする。
3 コミュニケーション活動	・本時のめあてを知る。	・本時のめあてを提示する。	
・歌	・歌を歌う。 “Nice to Meet You”	・一度聞かせてから、歌詞を確かめる。	・歌詞を練習させる。
・聞くこと	・教科書 p.10, 11 の音声を聞く。	・聞かせた後、答えを確かめる。 ・ワークシートに気づいたことなどを書かせる。	・場面を簡単に説明する。
	※技(聞)相手のことをよく知るために、名前や好きなもの・ことなどについて、おおよそ聞き取っている。(行動観察・WS) →記録に残さない評価		
・読むこと	・アルファベットの大文字の読み方を確かめる。	・巻末絵カード「アルファベット大文字」を見ながら、ALT の発した文字を指させる。 ・慣れてきたら、自分の名前の綴りを言いながら指さすようにする。	・大文字を読む。
・話すこと(やり取り)	・自己紹介のしかたを知る。	・ALT と名前や綴りを伝え合うやり取りを提示する。	・自分の名前の綴りが言えるように支援する。 ・HRT と名まえや綴りを伝え合うやり取りを提示する。
	T: Hi! A: Hi! T: I'm Sakura. S-A-K-U-R-A. Sakura. What is your name? A: Emily. I'm Emily. T: How do you spell your name? A: E-M-I-L-Y. Emily. T: Emily. Nice to meet you! A: Nice to meet you, too.		
	・ペアでたずね合う。	・綴りの尋ね方・言い方など戸惑っている児童の支援をする。 ・望ましいコミュニケーションの仕方を身に付けていた児童を全体で称賛する。	・児童と一緒に名前や綴りを伝え合う。 ★相手に名前を尋ねよう。「質問」は「対話力」育成の第一歩です(コミュニケーション力〔素地・基礎〕の育み)。
4 まとめ・ふりかえり	・評価規準を用いて、ふりかえりカードを書く。	・振り返りカードを発表させる。 ・意欲的に活動できた児童を称賛する。次時の活動に向け、学習意欲を促す。	
5 あいさつ	・挨拶をする。	・児童に挨拶をさせる。	

小学校外国語科 5 年生 モジュール 授業案②

タイトル	Hello, friends. 名前や好きなもの・ことを伝えよう。		Your Turn
実施時期	5 学年 4 月 第3時		
活動目標	自分の名前を書く。技		
評価規準	技自己紹介カードを書くために、教科書を参考にしながら自分の名前を書いている。 【注：「活動の目標」と「その活動の評価規準」の内容は、常に「一体化」させます。】		
活動の流れ	児童の活動	HRT の活動 ※評価	
1 あいさつ	・挨拶をする。	・慣れてきたら通常の速さで言わせる。	
2 チャンツ	・チャンツを聞き、言う。 ①How do you spell your name? ②What sport do you like?		
3 ワードリンク	【Word Link】【Let' s Try1】 ・色の言葉 ・ミッシングゲーム		
4 聞くこと	【Let' s Listen1】 ・登場人物の好き嫌いを聞き取る。		
5 あいさつ	・挨拶をする。		
1 あいさつ	・挨拶をする。	・慣れてきたら通常の速さで言わせる。	
2 チャンツ	・チャンツを聞き、言う。 ①How do you spell your name? ②What sport do you like?		
3 ワードリンク	【Word Link】【Let' s Try1】 ・食べ物の言葉 ・キーワードゲーム		
4 聞くこと	【Let' s Listen2】 ・登場人物の名前を聞き、丸で囲む。		
5 書くこと	【Sounds and Letters】 ・大文字の A～G まで書く。		
6 あいさつ	・挨拶をする。	・名前を言いながら大文字の A～G までを読ませる。 ・書き順や 4 線に書く位置を確かめる。 ・教科書 p.86 に書かせる。	
1 あいさつ	・挨拶をする。		
2 チャンツ	・チャンツを言う。 ①How do you spell your name? ②What sport do you like?		
3 書くこと	【Sounds and Letters】 ・大文字の H～N まで書く。		
4 書くこと	【Let' s Try3】 ・自分の名前や似顔絵をかく。 ・4 線に “I” を書く。		
※技(書)自己紹介カードを書くために、教科書を参考にしながら自分の名前を正しく書いている。(教科書の記録) → 「書くこと」についてはこの単元だけでなく、複数単元で見取っていくようにする。【注：「書く力」は、モジュール内で見取りましょう。】			
5 あいさつ	・挨拶をする。		
ロング授業 第4時			





タイトル	Hello, friends. 名前や好きなもの・ことを伝えよう。			 Your Turn
実施時期	4月 第4時 【注：本「言語活動の目標」は、「伝え合う力の育成」です。】			
活動目標	自分の名前と好きなものを友だちや ALT と伝え合う。【注：ねらいは、表現等の習得ではありません。】			
評価規準	技 自分のことを伝え、相手のことを知るために、名前と好きなもの・ことを伝えている。			
活動の流れ	児童の活動	HRT の活動※評価		ALT の活動
1 挨拶	・挨拶をする。	・児童に挨拶をさせる。		・挨拶の後、“How are you?” と気分を尋ねるなど児童とコミュニケーションを図る。 ・児童と一緒に歌ったり、言ったりする。
2 ウォームアップ	・歌を歌う。 ・チャンツを言う。	・歌やチャンツの指示を出す。		
3 コミュニケーション活動	・本時のめあてを知 る。	・本時のめあてを提示する。 好きなもの・ことなどを友だちと伝え合おう。		
・聞くこと	・ALT と HRT のやり取りを聞く。	・ALT とやり取りを提示する。	・HRT とやり取りを提示する。	
		会話例【※ねらいは「質疑応答（口頭コミュニケーションの基礎）力」の育成です。】 H: Hi! What sport do you like? A: Soccer! I like soccer. How about you? H: Soccer! I like basketball. (または What sport do you like?) What color do you like? A: Green! I like green. How about you? T: Red! I like red. 【注：この様に、先ず簡潔に応答の方が自然！母語の場合と同じ！】 What food do you like? A: Pizza! I like pizza. How about you? H: Me, too. I like sea food pizza. A: Good! Thank you! H: Thank you! Bye! A: Bye!		
		・聞き取りが不十分な児童の支援をする。	・好きなものを発音し、絵などを使って語の確認をする。 【注：学習指導要領では、「語（word）」と表示。「単語」は「世間用語」です。】	
		・隣の児童や他の児童とやり取りさせる。 ・教科書やワークシートに聞き取ったことを書かせる。	・好きなものの尋ね方を復唱させる。 ・児童と一緒に好きなもの、ことを伝え合う。	
・話すこと（やり取り）	・ペアでたずね合う。	※技（話・や） 自分のことを伝え、相手のことを知るために、名前と好きなもの・ことを伝えている。（行動観察・WS） →記録に残さない評価		
		・やり取りをする必然性をもたせるために、やり取りの後クラスの好きなスポーツベスト3を予想させるなど工夫する。		
4 まとめ・ふりかえり	・評価規準を用いて、ふりかえりカードを書く。	・振り返りカードを発表させる。 ・意欲的に活動できた児童を称賛する。次時の活動に向け、学習意欲を促す。		
5 あいさつ	・挨拶をする。	・児童に挨拶をさせる。		

小学校外国語科 5年生 モジュール 授業案③

タイトル	Hello, friends. 名前や好きなもの・ことを伝えよう。Enjoy Communication	
実施時期	5学年 4月 第5時	
活動目標	名刺カードを用いて、自分の名前や綴り、好きなもの・ことなどを伝え合う。	
評価規準	技自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、自分の名前や綴り、好きなもの・ことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。	
活動の流れ	児童の活動	HRT の活動 ※評価【注：上記の規準（下線部）を重視した指導を！】
1 あいさつ 2 話すこと (やり取り)	・挨拶をする。 ・スモールトークをする。	・代表児童と名前や好きな食べ物を伝え合うスモールトークをする。 - H: Hi! I' m Minami. What is your name? - S: My name is(I' m) OO... - H: What food do you like? - S: △△. I like △△. What food do you like?... ・ペアでやり取りする。
3 名刺づくり	・名刺カードを作る。	・「巻末コミュニケーションカード」の名刺カードを切り取り、自分の名前をアルファベットの太文字で書く。 ・好きなスポーツなども絵で描く。
4 あいさつ	・挨拶をする。	
1 あいさつ 2 チャンツ	・挨拶をする。 ・チャンツを言う。	・慣れてきたら、カラオケで言わせる。 ・好きなスポーツのやり取りまで視聴させる。
3 話すこと (やり取り)	①How do you spell your name? ・モデル映像を見る。	A: Hi! I' m Aoi. S: Hello, my name is Shoma. A: How do you spell your name? S: S-H-O-M-A. Shoma. How do you spell your name? A: A-O-I. Aoi. ...
4 書くこと	・名前や綴りの言い方に慣れ親しむ。 ・ペアでやり取りする。	・デジタル教科書の音声の後に言わせる。 ・綴りを言う時は、名刺のアルファベットを指で指すようにする。
5 あいさつ	【Sounds and Letters】 ・太文字O～Tまで書く。 ・挨拶をする。	・支援が必要な児童に声をかける。 ・書き順や4線に書く位置を確かめる。 ・教科書 p.87に書かせる。
1 あいさつ 2 チャンツ	・挨拶をする。 ・チャンツを聞き言う。	・慣れてきたら、カラオケで言わせる。 ・好きなスポーツのやり取りから視聴させる。
3 話すこと (やり取り)	①How do you spell your name? ②What sport do you like? ・モデル映像の続きを見る。 ・好きなスポーツの尋ね合い方に慣れ親しむ。 ・ペアでやり取りする。	A: Shoma, What sport do you like? S: Tennis. I like tennis. What sport do you like? A: Soccer. I like soccer. Nice to meet you. S: Nice to meet you, too. ・好きなスポーツ以外にも好きな食べ物や色など尋ね合い、やり取りを続けさせてもよい。
 技(話・や)自分のことを伝え、相手のことをよく知るために自分の名前や綴り、好きなもの・ことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて考えや気持ちなどを伝え合っている。【※下線部の見取りは、ロングの活動内で！】		
4 書くこと	【Sounds and Letters】 ・太文字U～Zまで書く。	・書き順や4線に書く位置を確かめる。
5 あいさつ	・挨拶をする。	・教科書 p.87に書かせる。
ロング授業 第6時		

小学校外国語科 5年生 ロング授業案③

タイトル	Hello, friends. 名前や好きなもの・ことを伝えよう。Enjoy Communication		
実施時期	4月 第6時		
活動目標	名刺カードを用いて、自分の名前や綴り、好きなもの・ことなどを伝え合う。		
評価規準	☒自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、自分の名前や綴り、好きなもの・ことについて、考えや気持ちなどを伝え合っている。		
活動の流れ	児童の活動	HRT の活動※評価	ALT の活動
1 あいさつ	・挨拶をする。	・児童に挨拶をさせる。	・挨拶の後、“How are you?” と気分を尋ねるなど児童とコミュニケーションを図る。
2 ウォームアップ	・歌を歌う。 ・ゲームをする。 (またはチャンツ)	・歌の指示を出す。 ・これまでに慣れ親しんだ言語材料を使ったゲームをする。	・児童と一緒に歌う。 ・ゲームに必要な表現を発話する。
3 コミュニケーション種		・本時のめあてを提示する。	
・聞くこと	好きなもの・ことをかいた名刺カードを交換して、友だちと自己紹介をしよう。		
	・やり取りを聞く。	・ALT とやり取りを提示する。	・HRT とやり取りを提示する。
・話すこと(やり取り)	 会話例 H: Hi! I'm Minami. Yes, Minami. M-I-N-A-M-I. What is your name? And How do you spell your name (or it)? A: (I'm) ○○. (ALT の名前の綴りを伝える) H: What sport do you like, ○○? A: Soccer! I like soccer. How about you? H: Soccer! I like basketball. (または What sport do you like?) What food do you like, ○○? A: Pizza! I like pizza. How about you? H: Me, too. I like sea food pizza. A: Good! Thank you! H: Thank you! Bye! A: Bye!		
	・名刺交換をしながら自己紹介をする。	・始めは名刺交換せずに、なるべく多くの児童と自己紹介をする。 ・望ましいやり取りをしているペアを全体の前で発表させ、良い所を見つけ合う。 ・隣の児童と名刺交換する場面動画を撮影し、提出させる。	・児童と自己紹介をし合う。
※☒(話・や)評価規準は上記欄参照(行動観察・動画など) <本時の評価基準(基準 B: 評価規準)下線部は☒・判・表の見取りのポイント> 基準 A: 自分の名前や綴り、好きなもの・ことなどを、<u>波線部分のように分かりやすく会話を広げながら、伝えたり答えたりしている。</u>【十分満足】 基準 B (規準): 自分の名前や綴り、好きなもの・ことなどを、<u>ジェスチャーを交えながら概ね伝えたり答えたりしている。</u>【概ね満足】 基準 C: <u>規準</u>を満たしていない。HRT や ALT の支援を得ながら伝えている。【努力を要する】			
4 まとめ・ふりかえり	・評価規準を用いて、ふりかえりカードを書く。	・振り返りカードを発表させる。 ・意欲的に活動できた児童を称賛する。次時の活動に向け、学習意欲を促す。	
5 あいさつ	・あいさつをする。	・児童に挨拶をさせる。	

小学校外国語科 5 年生 モジュール 授業案④

タイトル	Hello, friends. 名前や好きなもの・ことを伝えよう。Over the Horizon	
実施時期	5 学年 4 月 第 7 時	
活動目標	英語と日本との違いを知り、世界と日本の文化に対する理解を深める。	
評価規準	主 思 外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、日本に住む外国の方の話の内容を捉えようとしている。 【注：評価規準は円滑な授業展開には必須ですが、その規準を用いた学習状況の評価は、原則、「ロングの言語活動」内で見取りましょう。また、「単元」レベルで見取りましょう！】	
活動の流れ	児童の活動	HRT の活動 ※評価
1 あいさつ 2 話すこと (やり取り)	・挨拶をする。 ・スモールトークをする。	・代表児童と好きな色を伝え合うスモールトークをする。 H: Hi! How are you? S: I' m good. How are you? H: I' m good. What color do you like? S: OO. I like OO. What color do you like? H: △△. I like △△. Thank you. S: Thank you. ・ペアでやり取りする。
3 言語の違い	・日本語で自分の言い方を考える。	【ことば探検】 ・「自分」のことを、英語では「I」で表現します。日本語には様々な言い方があります。「わたし」「ぼく」「うち」「おれ」「わし」などの言い方があることに気づかせる。
4 あいさつ	・挨拶をする。	
1 あいさつ 2 チャンツ	・挨拶をする。 ・チャンツを言う。	・慣れてきたら、カラオケで言わせる。 ・速さを変えてもよい。
3 話すこと (やり取り)	・スモールトークをする。 【※右欄の様な「やり取りの仕方（質疑応答や理由の陳述）」は、英語のコミュニケーションでは当たり前です。是非とも、身に付けさせたいコミュニケーション力（資質・能力）の基礎です。】	・代表児童と好きな果物を伝え合うスモールトークをする。 H: Hi! How are you? S: I' m good. How are you? H: I' m good. What fruit do you like? S: OO. I like OO. What fruit do you like? H: △△. I like △△. And I like OO, too. Because OO is delicious! Thank you. S: Thank you. ・ペアでやり取りする。 ・デジタル教科書を活用しながら、大文字ビンゴをする。
4 読むこと 5 あいさつ	・大文字ビンゴをする。 ・挨拶をする。	
1 あいさつ 2 チャンツ	・挨拶をする。 ・チャンツを聞き、言う。	・慣れてきたら、カラオケで言わせる。 ・速さを変えてもよい。
3 聞くこと	①How do you spell your name? ②What sport do you like? ・日本に住む外国の方の話を聞く。	・全体を 1 回視聴させ、Findlay さんがどんな仕事をしているか書かせる。 ・もう一度視聴させ、出身地や住んでいる所、好きなスポーツなどわかったことなどを書かせる。
4 読むこと 5 あいさつ	・大文字ビンゴをする。 ・挨拶をする。	・デジタル教科書を活用しながら、大文字ビンゴをする。
ロング授業 第 8 時		



タイトル	Hello, friends. 名前や好きなもの・ことを伝えよう。 Over the Horizon		
実施時期	4月 第8時		
活動目標	世界の名前の言い方を知り、世界と日本の文化に対する理解を深める。		
評価規準	<u>国 技</u> 外国語の背景にある文化を理解するために、自分の名前について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。		
活動の流れ	児童の活動	HRT の活動※評価	ALT の活動
1 あいさつ	・挨拶をする。	・児童に挨拶をさせる。	・挨拶の後、“How are you?” と気分を尋ねるなど児童とコミュニケーションを図る。
2 ウォームアップ	・歌を歌う。 ・ゲームをする。 (またはチャンツ)	・歌の指示を出す。 ・これまでに慣れ親しんだ言語材料を使ったゲームをする。	・児童と一緒に歌う。 ・ゲームに必要な表現を発話する。
3 コミュニケーション活動	日本や外国の名前の言い方について知り、文化のちがいをかんがえよう。		
・書くこと	・世界の姓の言い方について知る。 ・薄くなっている文字をなぞる。	【Do you know?】 ・外国の姓の言い方は様々で、ミドルネームがあったり、家族名名前を入れたりすることなどに気付かせる。 ・日本名の英語での名前の言い方についてとりあげる。 ・英語国の姓についてクイズを出す。	・ALT の名前について説明する。
・話すこと(やり取り)	・クイズをする。 ・ALT と HRT のやり取りを聞く。	【Challenge】 ・ALT とやり取りを提示する。	・それぞれの名前の意味について説明する。 ・HRT とやり取りを提示する。
	会話例 【※ 英語のコミュニケーション文化では、親しみを込め、名前を付けて会話をします。】 H: Hi! A: Hi! I'm Taiyo. My family name is Suzuki. What your name? A: (ALT の姓と名を伝える。) H: Nice to meet you, ○○. A: Nice to meet you, too, Taiyo. H: Bye! A: Bye!		
	・隣の児童やその他の児童とやり取りをさせる。 ・やり取りの様子を評価する。	・ALT とやり取りを提示する。	・児童と一緒に名前をたずね合う。
	・ペアでたずね合う。	※<u>国 技</u>(話・や) 外国語の背景にある文化を理解するために、自分の名前について、<u>簡単な語句や基本的な表現を用いて</u>、お互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。(行動観察・ふり回りカード) 【※最後の活動故、<u>技</u>(下線部)も評価しましょう!】	
4 まとめ・ふりかえり	・評価規準を用いて、ふりかえりカードを書く。	・振り返りカードを発表させる。 ・意欲的に活動できた児童を称賛する。次時の活動に向け、学習意欲を促す。	
5 あいさつ	・あいさつをする。	・児童に挨拶をさせる。	

戸田市立中学校外国語におけるCAN－DOリスト形式による学習到達目標

令和4年度版
戸田市英語教育研究推進委員会

【戸田市が育てたい児童生徒像】

- ①誰とも主体的に関わろうとする子供
- ②互いに気持ちや考えを英語で伝え合う子供
- ③豊かな国際性を身に付けた子供

【外国語科目標】

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り、発表）、書くことによる

実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。

○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

【戸田市中学校外国語教育における全体目標】

外国語を通じて、言語や文化に対する知識理解を深め、誰とも主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、5領域の総合的な活動を通して、コミュニケーション能力の基礎を養い、より豊かな国際性を身に付ける。

	聞くこと	読むこと	話すこと		書くこと
			やり取り	発表	
卒業時	社会的な話題についての短い説明を聞いて、その概要や要点を捉えることができる。	社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章を読んで、その概要や要点を捉えることができる。（～500語程度）	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、論理的に再構築して述べ合うことができる。	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、論理的に再構築して話すことができる。	社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、論理的に再構築した文章で書くことができる。（～80語程度）
評価	授業での聴解力評価 及び定期テスト パフォーマンステスト	授業での読解力評価 定期テスト	授業での対話力評価 パフォーマンステスト	授業での表現力評価 パフォーマンステスト	授業での文章力評価 定期テスト
2学年 修了時	日常的な話題について、まとまりのある話を聞いて、その概要や要点を捉えることができる。	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたまとまりのある文章を読んで、その概要や要点をとらえることができる。（～350語程度）	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、論理的に伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を一貫した論理で話すことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて論理的な文章を書くことができる。（～60語程度）
評価	授業での聴解力評価 及び定期テスト パフォーマンステスト	授業での読解力評価 定期テスト	授業での対話力評価 パフォーマンステスト	授業での表現力評価 パフォーマンステスト	授業での文章力評価 定期テスト
1学年 修了時	日常的な話題についての会話を聞いて、必要な情報を聞き取ることができる。	日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものを読んで、必要な情報を把握することができる。（～200語程度）	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	関心のある事柄や体験したことなどについて、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を書くことができる。（～40語程度）
評価	授業での聴解力評価 及び定期テスト パフォーマンステスト	授業での読解力評価 定期テスト	授業での対話力評価 パフォーマンステスト	授業での表現力評価 パフォーマンステスト	授業での文章力評価 定期テスト

第2学年〇組 外国語（英語）科学習指導案（例）

日 時	令和4年〇月〇日（〇）第〇校時		
場 所	2年〇組 教室		
生徒数	39名（男子19名 女子20名）		
指導者	教諭	〇〇	〇〇〇
	ALT	〇〇	〇〇〇

1 単元名 Unit4 : Homestay in the United States *NEW HORIZON ENGLISH COURSE 2*

2 単元について

（1）教材観

本単元は、キャラクターたちのホームステイ体験をとおして、習慣や文化が異なる環境での生活やマナー、コミュニケーションの大切さや難しさについて考えさせることをねらいとしている。ホームステイは海外旅行や海外での寮生活とは異なり、家族の一員として扱われるため、家庭内のルールに従わなければならない、ホストファミリーとのコミュニケーションが一層重要となる。各キャラクターの困った経験をもとに、文化の違いやコミュニケーションを積極的にとることの大切さを理解させたい。

家庭内のルールやマナー、文化の違いを象徴的に表す場面では、「必要や義務」を表す **have to** 及び **must** を用いて「表現能力」を育成する。安易に **have to** = **must** とならないよう、相手との対話の目的、場面、状況の中で、言語を「いかに適切に活用するか」に焦点を当てて指導したい。

また、本 Unit の後半では動名詞が登場する。不定詞の名詞的用法との違いの説明にとどまらず、「コミュニケーションにおける言語の働き」を重視する視点から動名詞と言う表現形式をとる事を理解させながら、最終的には、相手と円滑なコミュニケーションを図ることができるようにさせたい。

【★「言語スキル」は、「コミュニケーションスキル（コミュニケーションを図る資質・能力）育成」の観点から育みましょう！】

（2）生徒観

2020年1月に実施した戸田市学力テストにおいて、本学年の英語の平均点は、全国の平均より〇. 〇ポイント上回った。このことは、本市で取り組んでいる小学校1年生からの



「英語によるコミュニケーション教育」の成果と深い関連があると言えよう。今後の課題としては、4言語活動、5領域のうち「書く力」が最も弱いので、ノートやタブレットを活用する「英語を書く活動」は「英語によるコミュニケーション力（資質・能力）」を育む学習になる様に指導していきたい。活動で書く英語は、伝達内容を相手に伝えるコミュニケーションの手段であることを意識させたい。それ故、そのためのトピックや課題を工夫したい。また、多くの生徒は、小学生の時から英語による「オーラル・コミュニケーション」には慣れている。今後は、英語による表現内容が広がり豊かになっていくことを実感させながら、さらに生き生きとコミュニケーションが行えるよう、「言語活動の在り方と方法」を開発していきたい。

（3）指導観

本単元を通して、自分の意見や考えを整理し、まとまりのある内容を相手に伝えられるよう、段階を追ってコミュニケーション活動の機会を確保していきたい。自分の考えを整理する段階、そしてまとまりのある内容にしていく段階と、段階を追うことで表現の幅が広がり豊かになっていくことを生徒に実感させたい【思考・判断・表現の諸能力の育成】。この思考力・判断力・表現力の自己評価については、コミュニケーション活動の振り返りシートを活用し、自分で工夫した表現等（学習状況）について「本時や単元の評価規準」を用いて比較させることで「更なる学習意欲」を伸ばしていきたい。

また、タブレットを活用し、わからない表現などを調べさせながらコミュニケーション活動を行わせたい。その活動を通して生徒の学習意欲を喚起し、一人一人の「主体性」を高めていくことを目指す。このタブレットを活用する活動では、第3者に「対話のやり取り」の様子を録画させ、それを提出させる。指導者は、その動画でのコミュニケーション状況（形成されていく資質・能力）について、「単元の

評価規準」を用いて適切に評価し、一人一人の情報をエクセルにインプットする。そうすることで、学期末等に行う「総括的評価（形成的評価のまとめ）→ 成績付け」は能率的になる。

※【各学校の必要に応じて】「アクティブラーニングについて」・・・「校内研修との関わり」などはここに入れる。

3 単元の目標

- ・習慣やマナーについて、たずねたり伝えたりすることができる。
- ・日米の生活習慣の違いを知り、ともに暮らすヒントを考えることができる。
- ・相手へのアドバイスなど、まとまりのある内容を相手にわかりやすく伝えることができる。



4 単元の評価規準【★下線部は「見取り」、即ち「指導」のポイント】：「指導と評価の一体化」】

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①習慣やマナーに関するアドバイスを、 <u>have to や must を適切に使い</u> ながら、相手に <u>伝えている</u> 。	①習慣やマナーに関するアドバイスを、 <u>相手の立場や考え方を考慮</u> しながら <u>工夫して伝えている</u> 。	①ルールやマナーについてのアドバイスを、 <u>まとまった内容</u> にして <u>伝えようとしている</u> 。
②自分が楽しんだことや、やり終えたことを、 <u>動名詞を適切に使って</u> 相手に <u>伝えている</u> 。	②相手へのアドバイスなど、 <u>まとまりのある内容</u> を相手に <u>わかりやすく伝えている</u> 。	②会話の流れが自然になるように、自分の <u>考えや気持ちを整理して</u> 相手に <u>伝えようとしている</u> 。

5 単元の指導と評価の一体化に関する計画（9時間扱い）

時	◆ねらい ○言語活動 【★各レッスンの目標の文末は「～をする」】	「評価規準」による「形成的な評価」			
		知・技	思・判・表	態	◎評価方法
1	◆しなければならないことなどの必要性や義務を、相手に伝える。 ○「このルールについて考えよう」 学校や家庭でのルールについてペアで対話する			○	◎ペア活動の観察
2	◆理想の学校のルールを自ら作り出し、相手に伝える。 ○「理想の学校ルール」自分の理想とする学校のルールを作成し、相手やグループのメンバーに伝える。			○	◎ワークシート ◎グループでの対話の観察
3	◆架空のスケジュールを作成し、正確に伝え合う。 ○「スケジュールを確認し合おう。」 自分と相手のスケジュールを確認し合い、遊びに行く日を決める。	○			◎ワークシート ◎対話の観察
4 【本時】	◆しなければならないことなどの義務や命令を、相手に伝える。 ○「上手に断ろう」友達の誘いを断る前提で対話を進め、即興でその理由を相手に丁寧に伝える			○	◎対話の観察
5	◆先週、自分が実際に楽しんだことを相手に伝える。 ○「先週末に楽しんだことを伝え合おう。」			○	◎ワークシート
6	◆先週、自分が実際にやり終えたことを、相手に分かり易く伝え合う。	○			◎ワークシート

	○「先週末にやり終えたことを伝え合おう。」				
7	◆自分が楽しいと感じたり、わくわくすることを相手に伝える。 ○自分が楽しいと感じたり、わくわくすることを伝え合おう。			○	◎ワークシート
8	◆ホームステイをしに日本へ来る外国人に対して具体的なアドバイスをまとめる。 ○ホームステイをしに日本へ来る外国の方々へのアドバイスをまとめよう。	○	◎		◎ワークシート
9	◆ホームステイをしに日本へ来る外国人役の生徒に、日本での生活について相手の文化を理解しながら伝える。 ○まとめたアドバイスを相手に整理して伝えよう。		○		◎対話の様子を撮影した動画 ◎振り返りシート

6 本時の学習指導 【★「評価規準」を意識しながら指導：「指導と評価の一体化」】

(1) 本時の目標

- ・友達の誘いを断るために、しなければならないこと（義務や命令など）を相手に伝える。

(2) 本時の評価規準 【★下線部は「見取り」、即ち「指導」のポイント】

【主体的に学習に取り組む態度】【★「主体性」の育成には「思考力・判断力」が必要】

- ・誘いを断る理由（義務や命令など）を整理しながら考え、判断し、伝えようとしている。



(3) 本時の展開

	○言語活動 ・ 学習内容	・ 指導上の留意点 ◎評価（形成的評価）	単元の評価 規準との関 連
導 入 10 分	1 Greetings 2 Warm-Up (Mini-Talk) Today's Topic : This Weekend ・既習事項である will や be going to を用いてペアに自分の予定を伝える。 ・楽しそうに対話していたペアを、代表として全員の前で繰り返し行う。 ・Mini-Talk の振り返りシートを書く。	・英語によるコミュニケーション学習を楽しむ雰囲気を作る。(Let's enjoy communication!) ・デモンストレーションを行うことで、既習事項の復習(未来のことを伝える表現)に気付かせる。 ◎自分たちの対話を振り返えらせる。自分が表現できたことと、次回への目標を書かせる。	
展 開 30 分	3 Today's Activity (1) Today's Goal ねらいの確認 友達の誘いを断るために、しなければならないことを相手に伝えよう。 (2) Practice 表現の確認・練習 ・声に出して ALT に続いて表現の練習を行う。	・本時の目標をクラス全体に提示する。 ・教科書 p. 61 の Mini Activity の表現を利用する。	

	・実際の会話で自分が使用できそうな表現を見つける。 (3) Demonstration 対話例の提示 ・教員による見本の会話を聞く。 (4) Communication Activity ○コミュニケーション活動「誘いを丁寧に断ろう」を行う ・1回目：ペアを自由に組む。 ・2回目：相手を変えてペアを組む。	・パワーポイントで useful expressions を提示する。 ・JTE は机間指導をしながら生徒の発音の補助を行う。 ・JTE と ALT が対話の見本を提示する。 ・誘いを断るだけでなく、次にお互いが都合のつく日の確認も行い、誘いを最終的には受け入れる対話にする。 ◎「誘いを断る理由（義務や命令など）を整理しながら考え（形成）、判断し、伝えようとしている。」 ・ALT は生徒の会話に入り会話を深めながら、必要に応じて支援する。 ・JTE は会話が進んでいないペアを支援する。 ・生徒の学習状況を積極的に見取り、適宜に指導の改善を図る。	ウ②
まとめ 10分	4 Consolidation (1) 代表生徒による発表 ・自分たちが行った対話と比較しながら聞く。 (2) 振り返りシートの記入 ・本時のねらいが「どの程度できたか」、自己評価をする。 5 Greetings	・生徒の学習状況を積極的に評価する。その評価情報を次回の指導に活かす。 ・本時の目標に正対した振り返りを、評価規準を用いて行わせ、今後の改善すべき課題について考えさせる。	ウ②

(4) 本時の板書計画

※useful expressions の提示の際のみ、パワーポイントを使用する。

Today's Goal	友達の誘いを断るために、しなければならないことを相手に伝えよう。
Greeting Warm-Up Practice Activity Sharing in class Greeting	会話表現 (対話に使える表現を書くが、練習・確認後はすぐに消す。)



戸田市英語教育推進計画2022 ～3×ECプラン～



戸田市の英語教育の目標

○小・中9年間の一貫した英語教育を通して育てたい子供像



誰とでも主体的に
関わろうとする子供



互いの気持ちや考え
を英語で伝え合う
ことができる子供



豊かな国際性を
身に付けた子供

○中学校卒業時に英語でプレゼンテーションができる子供の育成

○中学校卒業時に英検3級以上取得率60%以上

小・中一貫英語教育カリキュラム

小学校 Elementary School

低学年：年間20時間程度

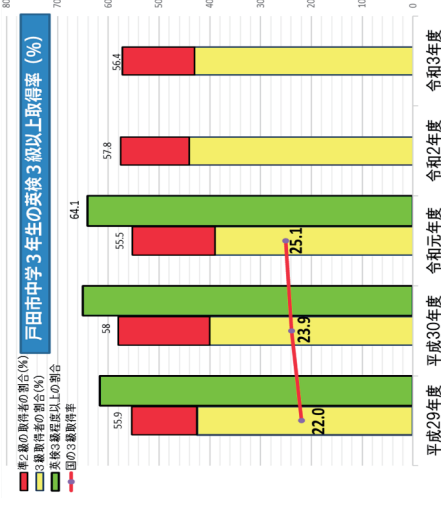
中学年：年間70時間（ロング＋モジュール）

高学年：年間70時間（ロング＋モジュール）
ふれる→慣れる→親しむ 対人コミュニケーション活動

中学校 Junior High School

戸田市版CAN-DOリストを活用したAll English授業
A L Tを活用した複数領域統合言語活動
即興性・持続性を高めるスモールトーク
I C Tを活用したプレゼンテーション

中学3年生の英検3級以上取得率推移



着実な英語力の向上

戸田市英語教育推進委員会を校とする
英語教育改革の推進【小中一貫教育】

教育課程特例校として英語活動を実施
小・中一貫英語教育カリキュラム

小・中学校全校にALTを常駐配置

中学校区別小・中連携授業研究会の実施
（小学校2校・中学校1校）年間3回

英語教育推進リーダーを活用した研修
センター研究員による英語指導力研修

A L Tとのマンツーマンによるインタ
ビュー等のパフォーマンステストの実施

各種学力・学習状況調査の弱点分析・補強

I C Tの活用（デジタル教科書・タブレット）

英語検定受検費用助成事業
中学校3年生【英検3級・準2級】
小学校6年生【英検Jr.GOLD】

3×ECプラン

Enjoy Enrich Explore

Communication Plan (3×ECプラン)

①ALの視点か
らの授業改善

- 英語指導・評価用ルーブリックの活用
- 考えや気持ちを伝え合うやり取り
（即興で持続性のある会話）の充実
- 複数領域統合言語活動の充実
- アウトプット活動の充実（ディベート等）
- エビデンスに基づく授業改善
（全国学調・県学調・英検・各種調査等）

②教員の英語
力向上

- 小学校教員の英語免許状取得を促進
- 教員の英検取得を促進
小学校：英検2級、中学校：英検準1級
- 産官学と連携した質の高い研修

③グローバル
人材の育成

- 香港日本人学校のグローバルクラスの
児童と戸田市内小学校との交流授業
- イマージョン教育
- 教育×テクノロジーの推進（EdTech）
（遠隔授業・音声認識・AIロボット）

産官学との連携

ル・ポ・レイン首都圏 / BORDERLINK
毎週月曜日A L T meeting開催

株式会社 Loilo
「ロイノート」を活用したプレゼン

株式会社 mpi 松香フォニックス
モジュール対応デジタル教材
SWITCH ON!を活用した授業

サイエホールディングス株式会社
英検3級対策講座4回実施【9月】

文部科学省委嘱事業実施

日本を代表する有識者による指導
文部科学省 国立教育政策研究所
名誉所員 渡邊 寛治 先生
武蔵野大学 教育学部
客員教授 村川 久子 先生

青山学院大学との包括連携事業